簿冊 笠間史料　昭和１４年度第一次警備行軍部隊行動詳報

https://www.jacar.archives.go.jp/aj/meta/result?DB_ID=G0000101EXTERNAL&DEF_XSL=default&IS_KIND=summary_normal&IS_START=1&IS_NUMBER=20&IS_TAG_S51=iFi&IS_KEY_S51=F2013022811303341715&IS_EXTSCH=F2006083118101851446

件名 表紙「笠間史料　昭和１４年度第一次警備行軍部隊行動詳報」

https://www.jacar.archives.go.jp/das/image/C13021440600

笠間史料

自昭和十四年六月二十四日

至昭和十四年　七月　三日

昭和十四年度第一次警備行軍部隊行動詳報

警備行軍部隊中隊長

陸軍歩兵中尉　笠間哲行

防衛研究所図書館

件名 昭和１４年度第一次警備行軍部隊行動詳報　自昭和１４年６月２４日至昭和１４年７月３日

https://www.jacar.archives.go.jp/das/image/C13021440700

極秘

自昭和十四年六月二十四日

至昭和十四年　七月　三日

昭和十四年度第一次警備行軍部隊行動詳報

警備行軍部隊中隊長

陸軍歩兵中尉　笠間哲行

件名 警備行軍部隊行動詳報目次

https://www.jacar.archives.go.jp/das/image/C13021440800

p1-2/2

警備行軍部隊行動詳報目次

一、昭和十四年度警備行軍部隊派遣要領及準備ノ狀況

（一）行軍部隊派遣要領

（二）準備ノ狀況

二、派遣部隊ノ編成及行動ノ概要

（一）派遣部隊ノ編成

（二）行動ノ概要

第一日（羅南⇒茂山間）

第二日（茂山⇒三長間）

第三日（三長⇒農事洞間）

第四日（農事洞及三長附近）

第五日（農事洞⇒三水　　）

（農事洞⇒柳谷洞附近　ノ間）

第六日（農事洞及三長附近）

第七日（農事洞⇒三長間）

第八日（三長⇒興巖間）

第九日（興巖⇒茂山間）

第十日（茂山⇒羅南間）

三、行軍地方一般ノ狀況

其一　賊情及脅迫文ノ一例

其二　豆滿江上流地方住民ノ動靜及警備ノ狀況

1、住民ノ動靜

2、官民警備ノ狀況

其三　交通通信網ノ狀況

1、交通ノ狀況

2、通信網ノ狀況

四、行軍部隊ノ衞生狀態

五、結言及行軍實施ニ伴フ效果ノ概要

附　圖

一、警備行軍部隊行動概況要圖

二、和龍縣西半部及安圖縣要圖

三、茂山上流滿領内要圖

件名　1　昭和１４年度警備行軍部隊派遣要領及準備の状況

https://www.jacar.archives.go.jp/das/image/C13021440900

［笠間史料］一、昭和十四年度第一次警備行軍部隊派遣要領及準備ノ狀況

p1/15

一、昭和十四年度第一次警備行軍部隊派遣要領及準備ノ狀況

p2/15

（一）昭和十四年第一次警備行軍部隊派遣要領

第一　目的

一、聯隊警備管區タル茂山郡内ノ情勢ニ鑑ミ

一部ノ兵力ヲ以テスル

茂山以南豆滿江上流地域ニ警備行軍ヲ行ハシメ

以テ同地方ノ治安ヲ安定セシムルニ在リ

第二　編成裝備

一、警備行軍部隊ノ編制裝備附表第一ノ如シ

二、派遣部隊長ハ速ニ編成表ヲ提出スルモノトス

第三　行動要領

一、警備行軍部隊派遣期間及行動基準附圖第一ノ如シ

二、警備行軍部隊ハ地方警備機関ト密ニ連絡シテ

其ノ活動ヲ推進シ

以テ努メテ短期間内ニ派遣ノ目的ヲ達成スルモノトス

第四　通信連絡及報告

一、派遣部隊長ハ警備電話ヲ利用スル等ノ手段ニ依リ

定期的ニ其ノ狀況ヲ報告スルモノトス

p3/15

二、派遣部隊長ハ歸還後十日以内ニ

行動詳報ヲ提出スルモノトス

第五　經理及宿營給養其他

一、所要經費ハ師團ヨリ配當セラル

二、派遣間ノ宿營ハ舍營ニ依リ

給養ハ一般演習行軍ニ準シ部隊自炊トス

三、派遣隊長ハ六月二十三日中ニ出發準備ヲ完了シ

且　所要ノ先發者ヲ派遣スルコトヲ得

p4/15

附表

警備行軍部隊編成表

p5/15

警備行動部隊行動基準要圖

p6/15

（二）準備ノ狀況

第一日（六月二十一日）小雨アリ

一、十五時頃　前項警備行軍部隊派遣要領要旨ノ内示ヲ受ケ

中隊下士官以上ヲ中隊長室ニ集合セシメ

前記内示ヲ傳ヘ

平素準備セル處ニ依リ

派遣ニ関スル編成裝備ニ着手セルモ

教育其他ノ都合ニ依リ中隊殘置人員ヲ内示スルヤ

中隊長ニ對シ感涙ト共ニ同行ヲ願ヒ出ツルモノ積出スル等

將兵ノ志氣　大ニ振フ

二、二十四時頃ニハ携行彈藥及携行糧秣ニ関スル事項ヲ除ク外

準備ヲ完了セリ

第二日（六月二十二日）曇

一、十時　左記　警行命第一號ヲ下達ス

記

警行命第一號

p7/15

派遣中隊命令　　六月二十二日十時

於　羅南

（一）聯隊ハ警備管區タル茂山郡内ノ情勢ニ鑑ミ

一部ノ兵力ヲ以テ

豆滿江上流方面ニ警備行軍ヲ實施シ

同地方ノ治安ヲ安定ス

（二）中隊（機関銃一小隊及聯隊砲一小隊「一分隊欠」ヲ屬ス）ハ

聯隊行軍部隊トナリ

六月二十四日汽車輸送ニ依リ羅南出發

先ツ茂山ニ向ヒ前進セントス

派遣間ノ行動基準ハ聯隊派遣要領要圖ノ如シ

（三）各隊ハ六月二十二日十五時迄ニ出發準備ヲ完了シ

軍裝檢査ノ爲

十六時第七中隊舎前ニ西面ノ大隊縦隊ニ集合スヘシ

其ノ編成裝備ハ聯隊ノ派遣要領ニ據ル

（四）其他細部ニ関シテハ別ニ指示ス

派遣中隊長　笠間中尉

下達法　関係者ヲ集メ　口達筆記後　印刷セルモノヲ配布ス

p8/15

二、十時前後　携行彈藥　同糧秣ヲ受領ス

三、十三時ヨリ　醫務室ニ於テ派遣將兵ノ

身體檢査ヲ實施セラル

四、十五時ヨリ　中隊舎前ニ於テ軍裝檢査ヲ實施シ

茲ニ全ク諸準備ヲ完了セリ

五、十八時　左記警行命第二號ヲ下達ス

記

警行命第二號

派遣中隊命令　　六月二十二日十八時

於　羅南

陸軍歩兵曹長　小松威男　以下十名

同　主計曹長　上木育三

同　衛生曹長　原田元武

派遣中隊行動方面ノ物資衛生狀態ノ調査竝設營準備ノ爲

明二十三日　茂山ニ向ヒ先發ヲ命ス

細部ハ直接指示ス

但シ　部隊自炊トシ費用ハ實費支辨トス

p9/15

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

口達シ後　印刷配布ス

第三日（六月二十三日）曇小雨アリ

一、九時　警行命第二號ニ依ル人員ヲ茂山ニ向ヒ先發セシム

二、十二時　左記警行命第三號ヲ下達ス

記

警行命第三號

派遣中隊命令　　六月二十三日十二時

於　羅南

（一）本二十三日十七時ヨリ

携行荷物ノ搭載ヲ實施ス依テ同時迄ニ

荷物明細表携行ノ上

所要ノ人員ヲ羅南驛ニ差出シ

武藤少尉ノ指示ヲ受ケシムヘシ

但シ　兵器彈藥ノ搭載ニ就テハ別ニ示ス

（二）本二十三日十六時ヨリ

行軍部隊ニ對スル聯隊長ノ訓示

p10/15

アリ

依テ各隊ハ十五時四十分

雨覆練兵場ニ集合スヘシ

服裝は單獨ノ軍裝トス

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

要旨ヲ電話シ後　印刷配布ス

三、十一時頃　聯隊長ヨリ派遣中隊長ニ對シ左記内示アリ

記

警備行軍部隊ニ與フル内示

鮮内ニ侵襲スル匪群ニ對シ計画的ニ攻撃ヲ企圖スル場合ハ

豫メ認可ヲ受クルヲ原則トス

但シ常ニ捜索偵諜警戒ヲ周密ニシ事前ニ匪情ヲ偵知スルコトニ努メ

彼ニ先テ其ノ機先ヲ制スルノ著意ヲ最モ緊要トシ

苟モ彼ニ乗セラルルカ如キコト断シテアルヘカラス

而シテ一度戰闘ヲ決心スルトキハ

断乎徹底的ニ膺懲シ遲疑逡巡スルカ如キコトハ

嚴ニ戒心スヘシ

尚　小数ノ兵力ヲ主力ト遠ク離

p11/15

隔シテ前進又ハ警戒等ニ出ス場合ニ於テ

往々彼ノ陥穽的戰法ニ陥リシコト及

彼ヵ好ンテ誘致戰法ヲ執ル点ニ注意スヘシ

又　任務達成ノ爲ニ部下ヲシテ

地方官憲ト圓滿妥當ナル協調ヲ保タシムルト共ニ

地方有力人士トノ面接

一般民衆ノ指導ニ一段ノ注意ヲ喚起セシムルヲ要ス

四、十三時　左記警行命第四號ヲ下達スルト共ニ

別紙注意ヲ爲ス

記

警行命第四號

派遣中隊命令　　六月二十三日十三時

於　羅南

（一）中隊ハ聯隊命令ニ基キ

明六月二十四日八時十分　羅南發　茂山ニ向ヒ

汽車輸送ヲ實施ス

之ヵ爲　行軍部隊ハ　明二十四日六時三十分迄ニ

式台ヲ中央トシ

東面ノ大隊縦隊ニ集合スヘシ

（二）羅南驛ニ於ケル人員兵器彈藥等ノ搭載ニ関シテハ

山内少尉ヲシテ指示セシム

派遣中隊長　笠間中尉

下達法　印刷配布

p12/15

別紙

派遣部隊ニ對スル注意

一、行軍各部隊ハ行動間

特ニ嚴正ナル軍紀風紀ヲ確立シ

堂々タル行動ヲ爲シ　以テ

皇軍ノ威武ヲ宣揚スルコトニ努力セヨ

二、警戒心ヲ旺盛ニシ萬遺憾ナキヲ期セヨ

（１）夜間ニ於ケル飲酒ヲ禁ス

（２）小敵タリトモ侮ラス

大敵タリトモ怖レサルノ

注意ト覺悟トヲ以テ

常ニ行動セヨ

（３）茂山以西ノ地区ニハ到ル處

匪賊蟠居シ

我カ弱点ニ乗スル如ク努メアル事ヲ

常ニ忘ルヘカラス

（４）分隊以下ノ單独行動ヲ禁ズ

（５）携帯兵器ハ常ニ身辺ニ置キ

何時テモ應シ得ル準備ニ在ルコト

（６）宿營地ニ於テハ一般ニ脚絆ヲ附シ

2/3ノ假眠ヲ許ス

爾余ノ者ハ直ニ應シ得ルノ準備ニ在ルヘシ

（７）其他ノ事項ニ関シテハ其都度示ス

三、危害豫防ニ注意スヘシ

（１）裝填ハ別命スルニアラサレハ之ヲ禁ス

（２）携帯彈藥類ハ入箱ノ儘　茂山迄携行

同地以後ノ携行法ニ就テハ別ニ示ス

（３）携帯彈藥箱等ノ附近ニ於ケル喫煙ヲ嚴禁ス

（４）自動車ニハ許可ナク乗車スルコトヲ禁スルモ

乗車ノ場合ニ於ケル主要ナル注意

左ノ如シ

（イ）運転台ニハ　二名（運轉手共ニ）以上ノ乗車ヲ禁ス

p13/15

（ロ）運轉手ト決シテ談話スヘカラス

（ハ）数輛同時ニ行進スル場合ハ

後方車輛トノ連絡ヲ失スヘカラス

又　別命ナキ場合ト雖モ

前方側方ノ警戒ヲ忘ルヘカラス

（ニ）車体上ニ乗車スル者ハ確實ニ腰ヲ下ロシ

車輌ノ重心ヲ低下シ決シテ縁等ニ腰ヲ掛クヘカラス

四、防諜予防ニ関シ注意スヘシ

（１）車中又ハ宿舎等ニ於テ猥リニ地方人ト談話シ

或ハ派遣隊ノ任務等ヲ語リ

又ハ編成携行彈藥等

決シテ語ルヘカラス

（２）搗彈筒機関銃等　秘密ニ属スル兵器ヲ

地方人ニ公開セサル様　注意スヘシ

（３）宿營地又ハ休憩地等ニ於テ

紙屑ヲ捨ツヘカラス

必ラス焼却スルヲ要ス

（４）張皷峯事件ノ■ニ於ケル聯隊ノ戰死傷者数等ヲ

断シテ語ルヘカラス

（５）許可ナク地方ノ電話ヲ使用スヘカラス

五、地方官民ニ対スル動作ニ就テ

（イ）地方官民ヲ軽視スルカ如キ言動ハ爲スヘカラス

（ロ）聖戰ノ目的ヲ述フルハ差障ナキモ

之ニ対スル自己ノ意見等ハ述フヘカラス

（ハ）宿舎ノ舎主ノ氏名ハ記憶シ置キ

帰隊後禮狀ヲ出ス如ク努メヨ

（ニ）地方住民カ官憲等ノ欠点ヲ述フルモ

之ニ雷同セサル如ク

特ニ注意スヘシ

（ホ）地方官民ヨリ借用セルモノハ確実ニ之ヲ返納シ

又　物品ノ購入ノ際ハ之カ支拂ヲ失念セサルコト

（ヘ）許可ナク地方官憲ト交渉等ヲ爲スヘカラス

要スルニ地方官民ニ対シテ至嚴ナル軍紀ノ下ニ行動シ

聯隊ノ威武ヲ無言ノ裡ニ肝銘セシムル如ク努メヨ

六、衛生ニ注意スヘシ

１、生水生物ノ飲食ヲ嚴禁ス

２、暴飲暴食ヲ鎭ムヘシ

３、行動地方ハ公判夜氣温　著シク低下スルヲ以テ

寝冷ヲセサル事ニ氣ヲ付ケヨ

４、炊事等ノ際ハ防蝿ニ著意セヨ

七、其他

1、火災予防ニ注意スヘシ

2、濫費セサルコトニ努ムヘシ

3、物ヲ落紛失セサルコト

派遣中隊長　笠間中尉

p.14/15

五、十六時ヨリ聯隊長ノ派遣部隊ニ對スル左記訓示アリ

記

警備行軍部隊出發ニ方リ與フル訓示

（一）軍紀風紀ノ嚴守確立ニ努ムヘシ

行軍間ト宿營間ナルトヲ問ハス

常ニ至嚴ナル軍紀風紀ヲ維持スルハ

皇軍タルノ眞價ヲ發揚スルノ所以ニシテ

之ニ因リ地方官民ヲシテ

愈々　軍ヲ信頼スルニ至ラシムルト共ニ

匪群ヲシテ乘スルノ虚隙ナカラシメ

以テ戰ハスシテ勝ツニ至ルヘキモノナルコトヲ

銘肝スルヲ要ス

（二）常ニ至嚴ナル警戒心ヲ發揮シ

隊長ヲ中心トスル團結力ヲ顯揚スヘシ

匪梓ノ慣用戦法ニ鑑ミ如何ナル場合ニ於テモ

警戒ヲ怠ルヘカラス

特ニ疲勞困憊時

或ハ歩哨斥候等

小数人員ヲ以テ獨立勤務ニ服スルモノ

或ハ宿營間等ニ於テハ　之カ注意ヲ倍蓰シ

断シテ不覺ヲトルカ如キコトナク

且　終始各隊長ヲ中心ニ

鞏固ナル團結ヲ以テ行動スルヲ要ス

p.15/15

（三）衛生ニ注意シ不慮ノ危害防止ニ萬遺憾ナキヲ期スヘシ

天候ノ不順　行軍地方ノ衛生狀態ノ不良

加フルニ連續強行軍ニシテ

利用スヘキ宿營地モ亦狹隘ナルヲ以テ

感冒喝病豫防等　衛生ニ注意スルト共ニ

地形或ハ彈藥等ニ基因スル不慮ノ危害防止ニ関シテハ

絶エサル精神ノ緊張ト周到ナル注意トニ依リ

萬遺憾ナキヲ期スヘシ

六、十七時稍過キ　行軍部隊ニ通信一小隊（無線二分有線一分）ヲ

配属セラルノ命ヲ受ケタルヲ以テ

彈藥糧秣等ニ関シ　夫々中隊ノ関係者ヲシテ準備セシメ至

短時間内ニ支障ナク之ヲ完了スルヲ得タリ

件名　2　派遣部隊の編制及行動の概要

https://www.jacar.archives.go.jp/das/image/C13021441000

p1/38

二、派遣部隊行動ノ概要

p2/38

（一）派遣部隊ノ編成左ノ如シ

茂山方面警備行軍部隊人員編成表

派遣中隊長　笠間中尉

—略—

p3/38

茂山方面警備行軍部隊將校職員表

隊號	職官	官等	氏名
中隊	中隊長	歩兵中尉	笠間哲行
	第一小隊長	歩兵少尉	山内忠温
	第二小隊長	歩兵少尉	武藤　章
	第三小隊長	歩兵准尉	生田新市
機関銃小隊	小隊長	歩兵少尉	西川義弘
歩兵砲小隊	小隊長	歩兵少尉	小田徳明
通信小隊	小隊長	歩兵准尉	三枝高保
鳩分隊	分隊長	歩兵軍曹	中村富治

p4/38

（二）行動ノ概要

一、派遣間ニ於ケル行動ノ概要附圖ノ如シ

二、各自ノ行動左ノ如シ

第一日　自　羅南　至　茂山（六月二十四日　小雨アリ）

宿營地　茂山

一、六時　營庭式台前ニ整列

同六時三十分　聯隊長ノ軍容檢査アリ

二、六時三十五分　營門出發　羅南驛ニ向ヒ前進ス

一同志氣益々旺盛ナリ

三、七時五十分　左ノ如ク乘車ヲ完了

第一車輛　（客　　車）　ＭＧ小隊　ＬＡ小隊　ＩＴＬ小隊

第二車輛　（客　　車）　七中隊主力

第三車両　（有蓋貨車）　七中隊ノ一ヶ小隊及糧秣

第四車輛　（有蓋貨車）　馬匹（十三頭）

（有蓋貨車）　彈藥

四、八時五分　羅南驛發　茂山ニ向フ

途中　小茂山ニ於テ晝食

同地　國防婦人會員十數名ヨリ湯茶ノ接待ヲ受ク

五、十八時　人馬其他異狀ナク茂山驛ニ到着

當時　在茂中ノ　大隊長　於保少佐

及　地方官民約三十名ノ出迎ヲ受ケ

又　於保少佐ヨリ對岸及

p5/38

鮮内ノ情況　特ニ匪情ニ関スル情報ヲ知得セリ

六、十八時三十分　左記警行命第五號ヲ下達シタル後

設營者ノ指示ニ基キ夫々就宿セシム

警行命第五號

派遣中隊命令

六月二十四日十八時三十分

於　茂山

（一）金日成匪ノ主力約百六、七十名ハ

三道溝方面ニ遁走セルモノノ如ク

尚其一部約三十名ハ三長對岸近クニ蠢動シ在リ

関東軍ノ大西部隊（大西大佐ヲ長トセル約二百五十名）ハ

目下　三長附近ニ駐留シ匪團ノ情況ヲ捜索スルト共ニ

同地附近ノ治安ノ維持ニ任シツツアリ

（二）中隊ハ本夜茂山ニ宿營セントス

（三）勤務員　左ノ如シ

1. 部隊日直將校　　山内少尉
2. 巡察將校（下士官）　小松曹長
3. 部隊衛兵　　小野上等兵　以下十二名
（内　喇叭手　一ヲ含ム）
4. 巡　察　　第一第二小隊ヨリ某分隊　各一
（時刻及行動区域ハ別ニ示ス）

（四）各小隊ハ設營者ノ指示ニ基キ舍營スヘシ

p6/38

（五）戰備ノ度　左ノ如シ

（１）各宿舍ハ少クモ一名ノ不寝番ヲ設クヘシ

（２）一般ニ巻脚絆ヲ穿用

（３）衛兵ハ三分ノ一ノ假眠ヲ許ス

（六）警急集合場ハ驛前廣場トス

各分隊毎ニ集合スヘシ

（七）本夜ノ給養ハ舍主ノ供撰ニ依ル

（八）日課時限ハ營内ノモノニ同シ

（九）予ハ　二十二時迄憲兵隊ニ　爾後倶樂部ニ在リ

二十時　命令受領者ヲ憲兵隊ニ差出スヘシ

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

関係者ヲ集メ　口達筆記セシム

p7/38

七、前記命令下達後　茂山憲兵分遣隊ニ小隊長以上ヲ集合セシメ

初鹿憲兵軍曹ヨリ管内一般ノ狀況

特ニ匪團ノ情況ニ就キ説明ヲ求メ

之ヲ聴取セシムルト共ニ

曩に於保少佐ヨリ知得セル情報トヲ綜合シ

左ノ狀況ヲ知ル

1. 五月中旬以来

鮮内ノ一部及對岸滿領内ヲ襲撃セル匪團ハ

金日成ノ率ユル約二百名内外ニシテ

ＬＧ約九銃、長銃、拳銃ヲ以テ裝備セラレ

彈藥モ相當豊富ナルモノノ如ク

而シテ其主力ハ三道溝西方山地方向ニ

遁入セルモノノ如クナルモ

其一部約三十名ハ依然

三長対岸近クノ滿領内ニ蠢動シアルモノノ如シ

2. 関東軍大西部隊（約二百五十名）ハ目下

三長附近ニ駐留シアルモ

明二十五日　三道溝方面ニ行動ヲ開始スル予定ナリト

3. 三長警察署管内ニハ約二百名内外ノ警察官在リテ

鮮内及対岸ノ警備ニ任シアリト

八、二十時　明二十五日　行軍ノ爲

左記　警行命第六號ヲ下達ス

警行命第六號

派遣中隊命令

六月二十五日二十時　※二十四日？

於　茂山

（一）匪情及大西部隊ノ狀況ニ関シテハ既ニ承知ノ通リ

p8/38

（二）中隊ハ明二十五日六時　茂山出發

新道ヲ三長ニ向ヒ前進セントス

（三）各小隊ハ五時五十分迄ニ

茂山驛前十字路ヲ中隊主力ノ先頭トシ

路上ニ左ノ如ク集合スヘシ

※図　略

（四）高橋軍曹ハ別ニ示ス區分ニ基キ出發迄ニ

彈藥ノ交付ヲ完了スヘシ

（五）第三小隊長ハ部下一分隊ヲ以テ

糧秣輸送ノ警戒ニ任スヘシ

行動ノ細部ハ別ニ示ス

（六）上木主計曹長ハ携行糧秣ノ區分ヲ爲シタル後

第三小隊長ノ指揮ヲ以テ中隊主力ニ追及スヘシ

（七）予ハ　中隊主力ノ前方ヲ行進ス

派遣中隊長　笠間中尉

下達法　命令受領者及関係下士官以上ヲ集メ

口達筆記セシム

p9/38

第二日　自　茂山　至　三長（六月二十五日　雨）

宿營地　三長

一、六時　警行命第六號ノ如ク出發準備ヲ完了ス

同時在茂中ノ大隊長　於保少佐ヨリ

左記要旨ノ注意ヲ受ケ

勇躍六時十分　茂山ヲ出發ス

1. 屯營出發前ニ與ヘタル注意ニ基キ

困苦缺乏ニ堪エ行軍ノ目的ヲ達成セヨ

2. 行軍宿營間ニ於テ特ニ彈藥ノ取扱ニ注意セヨ

二、途中豪雨ニ逢フモ將兵ノ志氣益々旺盛ニシテ

依然行進ヲ續行ス

三、十三時　古寺德山（興巖西方約二粁ニシテ

故佐藤中尉以下四名殉職ノ地）

北側ニ於テ自動貨車　八輛ニ分乘セル

大西部隊主力ニ邂逅シ情報ノ交換ヲ遂ケタルモ

既ニ承知セルモノノ外　新報ヲ得ス

而シテ同部隊ハ　二縦隊トナリ

其一部ハ三長附近ヨリ對岸ニ渡河シ

紅旗河以東地區ヲ其主力ハ茂山附近ヨリ

豆滿江ヲ渡河シ

何レモ金日成ノ主力ヲ追擊スヘク

p10/38

行動中ナルヲ知ル

茲ニ於テ互ニ成功ヲ祈リツツ惜別ス

四、十七時三十分

人馬異狀ナク三長ニ到着　左記宿營命令ヲ下達ス

警行命第七號

派遣中隊命令

六月二十五日十七時三十分

於　三長

1. 匪情ニ関シテハ新報ヲ得ス

大西部隊ハ金日成匪ノ主力ヲ追ヒ

三道溝方面ニ轉進ス

2. 中隊ハ本夜　三長ニ宿營セントス

3. 勤務員　左ノ如シ

（１）部隊日直將校　生田准尉

（２）巡察將校　　西川少尉

（３）部隊衛兵　　三塚上等兵以下十二名

（内　喇叭手　一ヲ含ム）

（４）巡　察　　各歩兵小隊ヨリ各一分隊

（時刻行動區域ハ別命ス）

4. 各小隊　生田准尉ノ指示ニ基キ舍營スヘシ

5. 戰備ノ度ニ関シテハ不寢番ヲ二名トスル外前夜ト同シ

p11/38

6. 警急集合場ハ町内中央廣場トス

各小隊毎ニ集合スヘシ

7. 本夜ノ給養ハ携行糧秣ニ依ル

即刻受領者ヲ現在地ニ差出スヘシ

8. 日課時限ハ營内ノモノニ同シ

9. 予ハ　二十時迄　警察署後　渡辺方ニ在リ

十九時　命令受領者ヲ警察署前ニ差出スヘシ

派遣中隊長　笠間中尉

下達法　口達筆記セシム

五、十八時ヨリ約一時間ニ亘リ曹長以上警察署ニ集合シ

同署員ト情報會議ヲ開催シ情報ノ交換ヲ爲シ

匪團ノ侵襲狀況ヲ詳細ニ知ルヲ得タリ

其概要　附錄第一ノ如シ

六、十九時　中隊長ハ三長ニ一部ヲ殘置シ

同地附近ノ警備竝治安維持ニ任セシメ

主力ハ依然　明二十六日　農事洞ニ向ヒ前進スルニ決シ

左記　命令ヲ下達ス

記

p12/38

警行命第八號

派遣中隊命令　　六月二十五日十九時

於　三長

1. 匪情ニ関シテハ既ニ承知ノ通リ

2. 中隊ハ一部ヲ三長ニ殘置シ主力ハ

明二十六日八時　三長出發

農事洞ニ向ヒ前進セントス

3. 生田准尉ハ部下小隊（無線一分隊ヲ屬ス）ヲ以テ

舊三長守備隊ニ駐留シ

同地附近ノ警戒竝治安ノ維持ニ任スヘシ

行動ノ細部ハ別命ス

4. 爾余ノ主力ハ八時迄ニ　三長西端ヲ先頭トシ

路上縱隊ニ集合スヘシ

5. 行軍序列　左ノ如シ

—略—

6. 上木主計曹長ハ第一小隊ノ兵五名ヲ區處シ

糧秣ノ輸送ニ任スヘシ

細部ニ関シテハ別ニ示ス

p13/38

7. 予ハ　中隊主力ノ前方ヲ行進ス

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

七、右命令下達後　一般ニ左記注意ヲ爲ス

1. 軍紀風紀ヲ特ニ至嚴ニスヘシ
2. 匪團ハ三長近郊ニ出没シアル現況ナルヲ以テ

警戒心ヲ益々旺盛ニスヘシ

3. 彈藥ノ取扱上特ニ眞管類及浸濕セル彈藥等ヲ

直接火ニ當テ乾燥セサルコト

4. 感冒予防及寝冷ニ注意セヨ
5. 被服乾燥セハ巻脚絆ヲ穿用スヘシ
6. 靴傷予防上　明日ノ行軍ニハ地下足袋ノ穿用ヲ許ス

八、二十時　三長殘置隊長タル生田准尉ニ

左ノ如キ行動ノ憑據ヲ内示ス

生田准尉ニ與フル内示

1. 自衛ノ爲　又ハ不期ニ

匪團ニ遭遇スルニ在ラサル場合ノ外

計画的ナル匪團

p14/38

トノ交戰ニ関シテハ

中隊長ノ指示ヲ受クヘシ

但シ常ニ捜索偵諜警戒ヲ周密ニシ

事前ニ敵ノ行動ヲ看破シ彼ニ先チ

其ノ機先ヲ制スルノ著意ヲ最モ緊要トス

苟モ彼ニ乗セラルルカ如キコト

断シテ　アルヘカラス

之ヵ爲　著意事項　左ノ如シ

（１）一度戰鬪ヲ決心スルトキハ断乎トシテ

徹底的ニ膺懲シ

遲疑逡巡スルカ如キコトアルヘカラス

（２）兵力ヲ分散スヘカラス

之ヵ爲　小数ノ兵力ヲ遠ク離隔シテ派遣シ

又ハ　警戒勤務ニ服セシメサルコト

（３）任務達成ノ爲　小隊長以下

地方官憲ト圓滿妥當ナル協調ヲ保ツコト

2.　警戒ノ基礎　左ノ如シ

（１）晝間

イ、主トシテ展望哨（長以下四名）

ロ、適宜巡察ヲ派遣

ハ、行軍ハ三長ヲ中心トシ鮮内地ヲ三里以内トス

（２）夜間

イ、衛兵（長以下七名）

ロ、斥候（長以下六名以上）

p15/38

ハ、巡察（長以下四名以上ヲ適宜派遣）

ニ、不寝番ハ二名以上

（３）薄暮及黎明

イ、炊煙露營火火尖ニ依ル捜索ニ著意シ

専任者ヲ指定シテ監視

（４）其他ハ示セル区分ニ依ル

p16/38

第三日　自　三長　至　農事洞（六月二十六日　雨）

宿營地　農事洞

一、八時　中隊主力ハ予定ノ如ク農事洞ニ向ヒ

行軍ヲ開始シ　途中降雨ニ逢フモ

將兵ノ志氣　益々旺盛ニシテ何等事故ナク

十六時　農事洞ニ到着

二、十六時三十分　左記宿營命令ヲ下達シ　夫々就宿セシム

警行命第九號

派遣中隊命令　　六月二十六日十六時三十分

於　農事洞

1.　匪情ニ関シテハ既ニ承知ノ如ク

前ノ高地附近ニハ時々出没スルモノノ如ク

金平ノ指揮スル約三十名ノ匪團ハ

前ノ高地ノ北側谷地附近ニ蠢動スルモノノ如シ

當地警察隊ハ目下越境討伐中ナリ

2.　中隊ハ當分當地ニ村落露營ヲ實施ス

3. 吉田上等兵ハ部下分隊（長以下十二名）ヲ以テ
後刻示ス地點ニ位置シ警戒ニ任スヘシ　細部ハ別ニ示ス

p17/38

4. 三枝准尉ハ吉田分隊⇒駐在所間ニ電話網ヲ構成スヘシ
5. 爾餘ノ部隊ハ小川准尉ノ指示ニ基キ就宿スヘシ
6. 勤務員　左ノ如シ
（イ）部隊日直將校　小川准尉
（ロ）巡察將校　小松曹長
（ハ）巡　察　第一第二小隊ヨリ各一分隊
（行動ノ細部ハ別ニ示ス）
7. 高橋軍曹ハ吉田分隊後方ノ家屋ニ彈藥ヲ集積スヘシ
8. 警急集合場ハ本道上
9. 予ハ　崔鎭中方ニ在リ
派遣中隊長　笠間中尉
下達法
曹長以上集メ　口達ス

三、十七時　小隊長及指揮班幹部ヲ集メ　同地附近ノ地形
特ニ匪團來襲時ノ處置等ニ関シ　指示ヲ爲ス

四、十八時　小川准尉ヲ駐在所ニ派遣シ
情報ノ蒐集ニ努メシメタルモ　新報ヲ得ス

p18/38

第四日　農事洞附近（六月二十七日　小雨アリ）
宿營地　農事洞

一、五時中隊ハ夜間ノ警戒ヨリ晝間ノ警戒配備ニ移更シ
一部ヲ以テ展望哨及單哨ヲ配置シ　直接ノ警戒ニ任シ
爾餘ノ主力ハ武器被服ノ手入ヲ實施セシム

二、九時ヨリ十五時ノ間ニ農事洞駐在所ノ通報及
三長　生田准尉ノ報告ニ依リ　左記情報ヲ知ル
記
1. 二十六日十五時ヨリ行動ヲ開始
二隊トナリ討伐ニ越境セル
三長警察隊ノ一部　農事駐在署員十八名ハ
同日十八時四十分頃
⦿一二五〇（農事洞東北方約八粁附近）ニ於テ
約三十名ノ匪團ト遭遇交戰シ
敵ニ相當ノ損害ヲ與ヘタルモノノ如クナルモ

詳細不明　本戰鬪ニ於テ同署員二名負傷ス

又　主力タル三長警察署長以下（四九名）ハ同シク

⦿一二五〇高地方向ニ向ヒタルモ

其後ノ行動詳カナラス

而シテ　右負傷者ハ二名　三長ニ護送セリト

2. 十五時頃　三長署長ノ率ユル主力タル警察隊ハ

直洞（農事東北方約九粁）附近ニ於テ

十数名ノ匪團ト遭遇交戰シ

之ニ相當ノ損害ヲ與ヘタルモ　詳

p19/38

細不明ニシテ

同署員一名胸部ヲ盲貫ノ負傷セリト

三、右警察官ノ負傷ヲ知リタルヲ以テ

十五時頃

三長署ニハ生田准尉ヲ

農事署ニハ小川准尉ヲシテ

夫々見舞セシム

四、十五時　明二十八日　行軍實施ノ爲　左記命令ヲ下達セリ

警行命第一〇號

派遣中隊命令　　六月二十七日十五時

於　農事洞

1. 對岸近ク蠢動スル匪團　約三十名ハ

昨二十六日以來

我カ警察隊ト二回ニ亘リ遭遇交戰セルモ

今尚擊滅スルニ至ラス

又　一昨二五日

甑山（鮮内地ニシテ農事洞西南約十二粁）ニ

三名ノ匪賊現レ　鮮人人夫一名ヲ立木ニ縛著

農事方面ニ遁走セルモ其後ノ情況不明ナリ

2. 中隊ハ明二十八日　主力ヲ以テ

三水坪一部ヲ以テ　柳谷洞附近ニ行軍ヲ實施セントス

3. 山内少尉ハ部下小隊（一分ヲ欠キ　無線一ヲ屬ス）ヲ率ヒ

農事洞⇒元四洞⇒柳谷洞間ノ行軍ヲ實施スヘシ

但シ　元四洞西南約八粁ノ間ハ軌道車ヲ

p20/38

利用スヘシ

其他細部ハ別ニ示ス

4. 小田少尉ハ部下

歩兵砲小隊及歩兵一分隊ヲ併セ指揮シ

農事洞ニ駐留シ

同地ノ直接警備及情報ノ蒐集ニ努ムヘシ

5. 爾餘ノ中隊主力ハ　左ノ如ク

七時迄ニ駐在署前ヲ先頭ニ集合スヘシ

※図　略

6. 服装及携行品

（イ）服装

軍装ニシテ背嚢ヲ除キ地下足袋穿用

（ロ）携行品

一、弾薬

小銃　各人　　六〇發

輕機　各銃　三〇〇發

□　　各筒　　四發

機関銃各銃　　二四連

二、糧秣

二食物ノ携帯糧秣及小夜食

p21/38

7. 予ハ　七時　駐在署前ニ在リ

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

五、二十時頃　廣坪（農事西方約二粁）東北方高地ニ

炊煙ト思ハルルモノ　立昇ルトノ

警戒兵ノ報告ニ接セルヲ以テ

第一隊ニ警急集合ヲ命シ

自ラ之ヲ率ヒ捜索セルモ

霧深ク不明ナルヲ以テ

二十四時　宿營地ニ歸還セリ

p22/38

第五日　農事洞⇒柳谷洞間（六月二十八日　雨）

農事洞⇒三水坪間

宿營地　農事洞

一、八時　中隊ハ予定ノ如ク集合シ

先ツ山内少尉ハ軌道車ヲ利用シ柳谷洞ニ向ヒ前進

次テ中隊主力モ　三水坪ニ向ヒ　行軍ヲ開始ス

降雨ナレト　一同ノ志氣　極メテ旺盛ナリ

二、山内少尉ハ　元四洞ニ於テ　中隊主力ニ第一回ノ連絡ヲ爲シ

次テ　柳谷洞ニ向ヒ前進シ　豫定ノ行軍ヲ終ヘ

十七時三十分　農事洞ニ無事歸還スルモ

匪情ニ関シ　新情ヲ得ス

三、中隊主力ハ途中　紅巖西北方約三粁附近ニ於テ

焚火ヲ爲ス　三名ヲ目擊シ　三水及紅巖駐在署ニ連絡

之ヲ調査セルモ良民ナル事　判明セルヲ以テ

依然行軍ヲ續行　十三時　目的地ニ達シ

同地附近ヲ捜査セルモ異狀ヲ認メサルヲ以テ

十四時三十分　同地出發

十九時　無事農事洞ニ歸還セリ

其　行軍経路　附圖第一ノ如シ

四、此日　匪情ニ関シテハ何等新情ヲ得サルモ

三長警察隊主力ノ行動ハ明カトナリ

今明日中ニ　三長ニ歸還ノ豫定ナルヲ知ル

p23/38

第六日　農事洞附近（六月二十九日　曇）

宿營地　農事洞

一、七時　戰闘射擊實施ノ爲　左記命令ヲ下達ス

警行命第一一號

派遣中隊命令　　六月二十九日七時

於　農事洞

1. 匪情ニ関シテハ新情ヲ得ス

三長警察隊ノ主力ハ三長ニ歸還セリ

2. 中隊ハ本日　重火器ノ戰闘射擊ヲ實施セントス

射擊開始ハ　十一時ト豫定スルモ　別命ス

3. 小田少尉ハ豫テ準備セル所ニ依リ

聯隊砲ノ射擊ニ関シ　計畫實施スヘシ

4. 西川少尉ハ機関銃ノ射擊ニ関シ　計畫實施スヘシ

5. 示？標ニ変フルニ　日ノ丸二本ヲ植立スヘシ

又　射向ハ　滿領　直洞方向トシ

細部ハ現地ニ於テ指示ス

6. 射擊實施以外ノ部隊ハ　十時三十分迄ニ

駐在所前ニ集合シ　之ヲ

p24/38

見學スヘシ

7. 予ハ　八時以降　駐在所前ニ在リ

派遣隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

二、諸情報ヲ綜合スルニ

農事洞及三長對岸ニ近ク蠢動スル匪賊ハ

其兵力約三十名内外ニシテ

警察力ヲ以テ　十分之ヵ鎭壓及鮮内ノ治安維持ヲ爲シ得ルヲ

認メタルヲ以テ　豫定ノ如ク　明三十日　當地出發

歸還ノ途ニ就クニ決シ　左記命令ヲ下達セリ

警行命第一二號

派遣中隊命令　　六月二十九日二十一時

於　農事洞

1. 匪情ニ関シテハ新情ヲ得ス

2. 中隊ハ明三十日七時　農事洞　出發

三長ニ向ヒ行軍ヲ實施セントス

3. 各小隊ハ　六時五十分迄ニ農事洞　東端ヲ先頭ニ

路上縦隊ニ左ノ

p25/38

如ク集合スヘシ

※図　略

4. 小川准尉ハ第一第二小隊ノ兵　各三名ヲ指揮シ

輸送荷物ノ警戒ニ任スヘシ

行動ノ細部ニ関シテハ別命ス

5. 予ハ　六時三十分以後　農事洞　東端ニ在リ

第二小隊ノ前方ヲ前進ス

派遣隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

三、二十三時頃　三道溝　大西部隊長ヨリ

農事洞駐在所ヲ経テ　左記要旨ノ電話アリ

記

金日成匪ノ主力ノ行動ハ其後不明ニシテ

萬一ノ場合ヲ考慮スル

p26/38

時ハ　農事對岸方面ニ移動スルヤモ知レス

目下ニ於ケル農事方面ノ情況ヲ通報セラレ度

トノ連絡アリタルヲ以テ

當方面ノ匪情ハ其後変化ナキモノノ如シト

回答セリ

p27/38

第七日　自　農事洞　至　三長（六月三十日　晴）

宿營地　三長

一、七時　豫定ノ如ク行動ヲ開始シ

十五時無事　三長ニ到着

同地ニ宿營スルニ決シ　左記命令ヲ下達ス

警行命第一二號

派遣中隊命令　　六月三十日十五時

於　三長

1. 匪情ニ関シテハ新情ヲ得ス
2. 中隊ハ本夜　三長ニ宿營セントス
3. 各隊ハ生田准尉ノ指示ニ基キ就宿スヘシ
4. 勤務員　左ノ如シ

（イ）部隊日直將校　生田准尉

（ロ）部隊衛兵　　飯島上等兵以下十二名

（ロ）巡察將校　　小川准尉

（ハ）巡　察　　第一第三小隊ノ各一分隊

（行動ハ別ニ示ス）

5　警急集合場ハ町内中央廣場トス

6. 本夜ノ給養ハ携行糧秣ニ依ル

即刻受領者ヲ差出スヘシ

p28/38

7. 予ハ　町内中央　金活楨方ニ在リ

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

二、十六時　三長警察署ニ小隊長以上集合

情報ノ蒐集ニ努メタルモ新情ヲ得サルヲ以テ

明一日　三長ヲ出發スルニ決シ

十七時　左記命令ヲ下達ス

警行命第一三號

派遣中隊命令　　六月三十日十八時

於　三長

1. 匪情ニ関シテハ既ニ承知ノ通リ
2. 中隊ハ明七月一日　七時　三長　出發

興巖ニ向ヒ行軍ヲ實施セントス

3. 各小隊ハ三長橋西端ヲ先頭ニ　六時五十分迄ニ

左ノ如ク集合スヘシ

※図　略

p29/38

4. 上木曹長ハ糧秣輸送ニ関シ區處スヘシ
5. 小川准尉ハ兵五名ヲ指揮シ

輸送ノ爲ノ警戒ヲ兼ネ　茂山ニ先行シ

鉄道輸送ニ関シ處理スヘシ

細部ニ関シテハ別ニ指示ス

6. 予ハ　中隊主力ノ前方ヲ行進ス

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

p30/38

第八日　自　三長　至　興巖（七月一日　雨曇）

宿營地　興巖

一、中隊ハ豫定ノ如ク

七時　三長　出發　十六時　興巖ニ到着ス

二、九時　大西部隊ニ左記事項ヲ通報ス

1. 農事洞？？對岸ノ小匪團ハ依然

直洞附近ニ蟠居シアルモノノ如クナルモ

其行動ハ詳ラカナラス

主力トノ合流ハ今尚實現セサルモノト豫想セラル

揚匪ノ行動ニ就テハ御承知ノ如ク

其後新報ヲ得ス

2. 當隊ハ三日朝迄　茂山間ニ在ノ豫定

三、十七時　同所駐在所ニ於テ左記要旨ノ情報ヲ収集セリ

記

1. 六月二十日二十二時三十分頃

系統不明ノ約二百名ノ

匪團（軽機一二挺各自小銃携行）ハ

延吉縣天寶山金鑛大同部落ヲ襲撃シ

同鑛山建物並警察官駐在所ヲ全焼セシメ

食糧其他物資多数ヲ掠奪シ

部落民ヲ拉致　之ヲ携行セシメ

翌日七月一日四時　部隊ヲ集結

悠々南下移動セリト

2. 之ヵ匪賊ノ　討伐ノ爲

三道溝ニ待機中ノ大西部隊二四〇名及滿軍二〇〇

滿警二〇〇ハ直ニ出動討伐中ナリト

四、十六時　本夜ノ宿營及　明日ノ出發ノ爲

左記命令ヲ下達ス

p31/38

警行命第一四號

派遣中隊命令　　七月一日　十六時

於　興巖

1. 匪情ニ関シテハ天寶山襲撃匪團ノ外　新報ヲ得ス

2. 中隊ハ本夜　興巖ニ宿營セントス

3. 各小隊ハ別ニ示ス處ニ依リ　夫々就宿スヘシ

4. 勤労員　左ノ如シ

（イ）部隊日直將校　三枝准尉

（ロ）部隊衛兵　　及川上等兵以下一二名

（内　喇叭手一含ム）

（ハ）巡察將校　　武藤少尉

5. 警急集合場ハ興巖橋梁南方廣場トス

6. 本夜ノ糧秣ハ携行糧秣ニ依ル

即刻受領者ヲ差出スヘシ

7. 予ハ　崔文衡方ニ在リ

派遣中隊長　笠間中尉

下達法　口達筆記セシム

警行命第一五號

派遣中隊命令　　七月一日　十六時三十分

於　興巖

p32/38

1. 匪情ニ関シテハ其後　新情ヲ得ス

2. 中隊ハ明二日七時

興巖洞　出發　茂山ニ向ヒ行軍ス

3. 各小隊ハ六時五十分迄ニ

興巖橋南方路上ニ　左ノ如ク集合スヘシ

※図　略

4. 小松曹長ハ指揮班ノ兵三名ヲ率イ　先發シ

茂山ノ設營ニ任スヘシ

細部ハ別ニ示ス

5. 予ハ　中隊主力ノ前方ヲ前進ス

派遣中隊長　笠間中尉

下達法　口達筆記セシム

五、二十時　前項情報ヲ聯隊長ニ報告ス

p33/38

第九日　自　興巖　至　茂山（七月二日　雨）

宿營地　茂山

一、中隊ハ豫定ノ如ク七時　興巖出發　途中降雨ニ逢フモ

十三時　無事　茂山ニ到着セリ

一同　極メテ志氣旺盛ナリ

二、十三時　同地到着ト同時ニ　左記情報ヲ知ル

記

匪團約二十名ハ　三長對岸　二水坪（三長北方約八粁）ヲ

昨一日二時　襲擊　細部ハ明カナラス

三、十四時　前項匪情ト共ニ部隊ノ情況ヲ聯隊長ニ報告ス

四、十四時二十分　宿營ノ爲　左記命令ヲ下達ス

警行命第一六號

派遣中隊命令　　七月二日十四時二十分

於　茂山

1. 昨一日二時　三長對岸ノ　二水坪ハ約二十名ノ

匪團ニ襲擊セラレタルモノノ如クナルモ　詳細ナラス

2. 中隊ハ本夜　茂山ニ宿營セントス

宿營區分　左ノ如シ

p34/38

（１）憲兵隊道場　　第一小隊及指揮班

（２）小學校講堂　　第三小隊　歩兵砲　機関銃

（３）警察署道場　　第二小隊及通信

3. 勤労員　左ノ如シ

（１）部隊日直將校　　山内少尉

（２）同　日直下士官　各宿舎一名

（３）部隊衛兵　　日野上等兵以下十二名

（内　喇叭手　一ヲ含ム）

（４）巡察將校　　小田少尉

（５）巡　察　　第一　第二　第三小隊ヨリ各五

（細部ハ別ニ示ス）

4. 警急集合場ハ驛前廣場トス

5. 本夜ノ糧秣ハ携行糧秣ニ依ル

各小隊ハ直ニ受領者ヲ憲兵分遣隊前ニ差出スヘシ

6. 予ハ　憲兵隊ニ在リ

十六時　命令受領者ヲ同所ニ差出スヘシ

派遣中隊長　笠間中尉

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

p35/38

五、十六時　明三日　歸隊ノ爲　左記命令ヲ下達ス

警行命第一七號

派遣中隊命令　　七月二日十六時

於　茂山

1. 匪情ニ関シテハ新情ヲ得ス

2. 中隊ハ予定ノ行動ヲ終ヘ

明七月三日七時五十分　茂山出發

汽車輸送ニ依リ

羅南ニ歸還セントス

3. 各小隊ハ　七時二十分迄ニ　驛前廣場ニ集合スヘシ

4. 輸送ノ爲ノ勤務員　左ノ如シ

（１）人員搭載掛　　山内少尉

（２）荷物搭載掛　　武藤少尉

（３）馬匹搭載掛　　小田少尉

（４）兵器搭載掛　　各関係小隊長

（５）彈藥搭載掛　　高橋軍曹

各搭載掛ハ　七時三十分迄ニ　搭載ヲ完了スヘシ

5. 予ハ　七時以後　茂山驛ニ在リ

派遣中隊長　笠間中尉

p36/38

下達法

命令受領者ヲ集メ　口達筆記セシム

六、十七時　一般ニ左記要旨ノ注意ヲ爲ス

1. 彈藥ノ取扱ニ特ニ注意シ危害ヲ未然ニ防止スヘシ
2. 各自携行彈藥ハ十八時迄ニ高橋軍曹ニ返納スヘシ
3. 落紛失ナキ樣注意ノコト
4. 被服ヲ乾燥シ襦袢ハ全部着換ヘ感冒予防ニ注意ノコト
5. 借用物品ノ返納及購入諸品ニ對スル支拂ヲ完全ニスルコト
6. 敬禮ヲ嚴正ニ行フコト
7. 水ヲ節約シ又生水ノ飲用嚴禁ノコト
8. 暴飲暴食ヲ愼ムヘシ
9. 警戒心ヲ弛ムヘカラス

p37/38

第十日　自　茂山　至　羅南（七月三日　晴）

宿營地　羅南

一、中隊ハ豫定ノ如ク　七時五十分　茂山發

途中　小茂山ニ於テ　荷物ノ積ミ換エ等ヲ實施シ

十五時三十分　羅南驛著　行軍ニ依リ無事　歸隊ス

時ニ　十七時ナリ

二、十八時頃　聯隊長ノ訓示アリ

三、十八時四十分　命ニ依リ　混成中隊ノ編成ヲ解キ

續イテ　防疫事項ヲ實施シ

茲ニ　其任ヲ　終了セリ

四、左記規定ニ依リ　防疫ヲ實施ス

記

警備行軍歸還時防疫實施規定

1. 衞生部將校ハ部隊到着時

營庭ニ於テ防疫的問診ヲ行ヒ

異常者ヲ區分スヘシ

2. 歸還部隊ハ別ニ指示スル時刻ニ

澁谷少尉ノ指示ニ基キ

武器裝具携行品等ヲ上長官々舍ニ置キ

煮沸消毒ニ附スルモノヲ携行シテ

歩兵砲隊浴場ニ於テ入浴後

更衣スヘシ

之ヵ爲各所屬中隊殘留者ハ

澁谷少尉ノ指示ニ基キ

之ヵ準備ヲナスヘシ

3. 歸還者全員ニ對シ二回菌檢索ヲ實施スルニ付
六月五日及同月十二日八時迄ニ便ヲ取纏メ
※六月⇒七月
原田曹長ニ交付スヘシ
又肉眼的檢便ヲ實施ス
其ノ細部ハ別ニ指示ス
4. 歸還部隊營内居住者ハ
所属中隊ニ隔離シ
第一回菌檢索ノ成績陰性ノトキハ
之ヲ解除ス
5. 隔離中ハ中隊外ノ諸勤務ヲ免除シ
炊事酒保及他中隊等ノ出入ヲ禁シ
食餌分配食器消毒其他外部トノ連絡ハ
中隊残留者ニ於テ擔任スヘシ
6. 隔離中ノ入浴ハ歩兵砲隊浴場ヲ用ヒ
其ノ間歩兵砲隊ノ入浴ハ第一大隊？
通信隊ハ第三大隊
聯隊通信隊ハ第二大隊ノ
浴場ヲ使用スヘシ
7. 隔離中隊兵舎及厠出入口ニハ
靴底消毒盤及手洗用消毒水ヲ配置スヘシ
8. 夏衣？襦袢袴下褌等ノ
著裝被服ハ入浴場ニ残置シ
澁谷少尉ノ指示
依リ浴場ニ於テ煮沸スヘシ
9. 水筒飯盒及喇叭ハ糧秣委員ノ指示ニ依リ煮沸スヘシ
10. 鉄帽戰帽背嚢類ハ「フオルマリン」消毒ヲ實施スヘシ
11. 銃ハ木製部ヲ二・五％「クレゾール」水ニテ
擦拭シタル後
日光消毒スヘシ

件名　3　行軍地方一般の状況

https://www.jacar.archives.go.jp/das/image/C13021441100

p.1/17

三. 行軍地方一般の状況

p.2/17

其一　賊情及脅迫文ノ一例

安圖縣地方ニ於ケル匪賊ハ

朝鮮併合當時ニ其端ヲ發シタル

民族的偏見ヲ根底トシ

次テ民族自決主義ニ變移シ

更ニ共産黨ニ投シタル

所謂　共匪ノ外

滿洲國成立ト共ニ反滿反日ヲ標榜シ

且　強盗行爲ニ依リ生活ヲ爲ス

土匪ノ二種ニ大別シ得ル如クニシテ

此中

共匪最モ多ク

之等匪賊ハ逐年減少セリト雖モ

質ニ於テハ思想的根底極メテ深ク

團結鞏固　其　抵抗モ執拗ナルモノノ如シ

本年五月下旬以來　咸南方面ヨリ北上シ

豆滿江上流ノ鮮内　及

對岸近クニ屢々出没蠢動セル匪賊ハ

金日成ノ率ユル　約二百内外ノ共匪ナルモノノ如ク

其編成　並　侵襲狀況　概ネ左ノ如シ

―----------

p3/17

＜東北抗日聯合部第一路第二方面軍編成表＞

指　揮　　金日成（二八）

主　任　　呂伯岐（三〇）

副官處長　金海山（三五）

女子六名

参謀長　　林守山（三二）

参謀長附　金　平（三八）

―略―

---

p4-11/17

＜匪賊侵襲狀況＞

p.4

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
五月二二日　午后　九時〇〇分	元四洞（農事洞西方 一里)	一〇〇		夕食ヲ強喫セントシタルモ　果サス　逃走ス

五月二二日　午 后　九時〇〇分	籌岩（農事　西 南方 三里半)	七〇	1.拉致　一九名（鮮） 2.掠奪 粟七石一斗・牛一頭 麦二斗・醤油　二斗 食塩　一斗三升	
五月二二日　午 后一一時〇〇分	開拓洞　(農事 南方 三里)	三〇	1.拉致 一八名(内地人九・鮮人九) 2.掠奪 現金一〇〇〇円・白米八俵 粟二斗五升・地下足袋二〇足 時計　八個・防水布　七枚 作業服一〇枚・蓄音機一台 同レコード二〇枚・猟銃一挺 3.破壊　電話器　一個 4.殺害　一 (鮮人) 5.障害　一 (内地人全治三週間)	上記死傷　各一ハ　被拉 致後　逃走セントシタ ル際 賊ノ爲　射撃サレタル ニ依ル
五月二三日　午 前　一時〇〇分	上三水坪 上流二粁	――	1.　粟　二斗	

p.5

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
五月二四日　午 后　八時二〇分	上三水坪 南方二粁	七		一　拉致者　一名ヲ道 案内トシテ死傷者収容 ノ爲侵入ス 二　鮮人一・支那人六
五月二七日　午 后　八時三〇分	上大洞（上四洞 西一里)	七〇	1.拉致 二九 (鮮人二六・満人三) 2.掠奪　現金　三四円・大豆　三石 粟　三石五斗	
五月二七日　午 后　八時三〇分	(安圖縣)　東京 坪(上一洞　北	三〇	1.拉致　九 (鮮人　八・満人　一) 2.掠奪　燕麦　二斗・大麦　二斗	

	一里)		大豆　二石・稗　三升 馬鈴薯　一〇斤	
五月二九日　午 后　九時〇〇分	(和竜縣)二水坪 (三長北一里半)	三〇	1.拉致　一九（鮮　一五　満　四） 2.掠奪　粟　七石八斗五升・鶏 四羽 麻袋　一三枚・廣木　五尺 白米　二斗	
五月二九日　午 后一〇時〇〇分	(和竜縣)小玉石 洞　上村(三長 西北　二里)	八〇	1.拉致 五〇 2.掠奪 白米　五升・麦　三石九斗 粟一石三斗二升・大豆一石 四升・煙草二十二束・醤油 二升・塩 五斤・馬鈴薯粉 五斗五升・麻袋　八枚・ 味噌　二斤・魚　二〇尾 稷 二石九斗七升・鶏一三羽	

p.6

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
五月二九日　午 后　九時〇〇分	和竜縣　龍岩坪 (三長　西北二 里半)	六〇	1.拉致　一〇 2.掠奪 粟一石六斗五升・麦一斗 玉蜀黍一石二斗・現金十五円	
五月三〇日　午 后　八時〇〇分	(和竜縣)小玉石 洞下村(三長 東北一里半)	三七	1.拉致　二三 2.掠奪 粟五石五升・醤油六斗・大豆 六斗五升・煙草十五束・麻袋 十五枚・味噌一升・高粱二斗 五升・小豆　二斗五升・油　二升	五月三一日午后四時 被拉致者一九名 釈放サレ　皈来ス
五月三〇日　午	(和竜縣)芦田坪	三〇	1.拉致　一〇	

后一〇時〇〇分	(三長西北半里)		2.掠奪　粟　四石五升	
五月三〇日　午后一一時〇〇分	(和竜縣)中村(三長　北方二里)	一五	1.拉致　二三 2.掠奪　燕麦　二斗・粟　二石九斗 醤油二升・大麦　一石五斗 玉蜀黍二斗・煙草三十一束	五月三一日午后四時 被拉致者二一名 釈放サレ　飯来ス
五月三一日　午后　七時〇〇分	(和竜縣)石人溝東方二里	不明	1.拉致　三 2.掠奪　白米六俵・メリケン粉 三袋 罐詰　四八・石油　一〇罐	
六月　一日　午后　九時三〇分	(和竜縣)詩滿洞　(三長　西北二里)	四〇	1.拉致 一四 2.掠奪 豚二頭・現金四四円・麻袋 一〇枚・粟八升・麦一石六升 稗　五升・玉蜀黍　一石 大豆二斗・味噌醤油各一斗	오쾌일, 국경경비진 주파기 1회에도 나옴.

p.7

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
六月　五日　午后　七時〇〇分	(和竜縣)檢亭洞(釜洞ヨリ西北二里半)	一五		警笛ヲ吹キツツ山頂ニ登ル
六月　八日　午后一一時三〇分	(和竜縣)馬鹿溝入口(新豊洞ヨリ西北方半里)	五		部落ノ戸数ヲ問ヒ　且ツ　官憲ニ申告スヘカラスト脅迫ス
六月八日　午后一一時三〇分	(和竜縣)新豊洞	一五〇	1.拉致 七 (鮮人) 2.掠奪 精粟稗・豆類　十石 蓄音機　一・レコード 若干 醤油・味噌・塩　若干	(鮮女)
六月一三日　午后　六時二〇分	(和竜縣)百里坪東方二粁	一〇	1.拉致　一	賊ハ女　一、満人　四、鮮人　五

六月一四日　午后　七時〇〇分	(和竜縣)明新村機水洞	三		賊ハ満人　三官憲ニ申告スルト銃殺ニスルト脅迫ス
六月一八日　午后　一時〇〇分	(和竜縣)孟哥洞(南坪署　北方約二二粁)	二		密派中ノ密偵ヲ捉ヘ部落ノ戸数及警備狀況ヲ尋ネル

p.8

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
六月一八日　午后　九時〇〇分	(安圖縣)元峯屯（下四洞ヨリ約三粁）	三〇	1.拉致　二二 2.掠奪　粟・大麦・其他　約三石 豚二頭・味噌・醤油　若干 食用匙　二五本	六月一九日　十八名釈放 各皈来ス 被拉致者　屯長ニ勧告文　一　脅迫文二ヲ托送ス
六月一九日　午后　〇時三〇分	(和龍縣)青山里東南方　四粁	一〇〇	ナシ	一名ノ部民捉ヘラレタルモ脱走シタル所　五六發　射撃サル
六月一九日　午后　二時〇〇分	(和龍縣)青山里南方　四粁		1.拉致　二名 2.掠奪　牛　二頭	

六月一九日　午后　八時〇〇分	(和竜縣)上南溝南方　約二粁		1.拉致 三七名 2.掠奪 粟　一石一斗・大豆　三斗五升・醤油　六斗 味噌　二斗・塩　五十五斤 石油九升・馬鈴薯　一斗五升 衣類　其他　若干	

p.9

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
六月一九日　午后一〇時一〇分	(安圖縣)上一洞駐在所　西方直　対岸	不明	ナシ	電燈　二ケ所ニ点滅ス 午后一〇時五〇分　三ケ所ヨリ　同時ニ射撃ス
六月二〇日　午后　二時三〇分	(安圖縣)下三水坪　対岸	不明	ナシ	電燈　三ケ点滅ス
六月二〇日	(安圖縣)大治洞	不明	ナシ	電燈　三ケ点滅ス
六月二一日　朝	(安圖縣)元峯屯寺　(部落西方三丁)	不明	ナシ	訳文 「吾等ハ來テカラ飯ル崔氏ハ死ル程待ツテヰル」ト寺ノ壁ニ青鉛筆ニテ書キアリ
	(安圖縣)紅旗河南台坪(上四洞ヨリ　対岸　約一里)	九		「我々ハ本日午後九時頃大洞屯部落ニ行クカラ九名分ノ飯ヲ作ツテクレ」トノ手紙ヲ 農耕中ノ部民二名ニ渡

				ス

p.10

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
六月二三日　午后　七時〇〇分	(和龍縣)官地方(三道溝　西北方　約二〇粁)	一〇〇	不明	午后十二時頃　西北方密林中ニ逃走ス
六月二三日　午后一二時〇〇分	(安圖縣)上大洞(上四対岸)	三	三名分ノ食事(馬鈴薯餅)ヲ強要　之ヲ喫ス	午前一時頃　東京坪方面ニ逃走ス
六月二五日	(安圖縣)上大洞	三	ナシ	賊一名　重傷　之ヲ捕虜ニス
	(安圖縣)東京坪北方	三〇	討伐ニ向ヘル　農事　駐在署員　二名　負傷	一、敵ニ與ヘタ損害不明
六月二七日	(安圖縣) 直洞	三〇	討伐ニ向ヘル　三長警察署員　一名	敵ニ與ヘタ損害　不明

			負傷	

p.11

日　時	部落名	賊數	被害狀況	備　考
六月二九日	(安圖縣)東京坪 新興里	不明	不明	不明
六月三〇日	(延吉縣)天寶山	約二百	一、内地人　死傷十数名 三井鑛山 建物及 警察官駐在所等 全焼セシメ 又人質ヲ拉致セル由 ナルモ　詳細ハ調査シアラス	調査シアラス
七月　一日	(安圖縣)二水坪 附近	約二〇	掠奪　及　人質ヲ拉致セルハ　確実 ナルモ 詳細ハ調査シアラス	
備　考	一、本狀況ハ主トシテ警察　及　憲兵隊等ヨリ得タル情報ヲ 綜合セルモノニシテ 若干ノ差異アルヘシ 二、本狀況ノ匪團ハ殆ント　金日成匪ナルモノノ如シ			

---

p12/17

脅迫文ノ一例

屯長先生、

悪毒ナル日本奴等ノ統治ノ下ニ於テ数十年 来

無限ナル苦勞ト悲哀ヲ甘受シ来リシモ

屯長様御苦勞テアリマスカ

九人分ノ飯ヲ焚イテ下サルナラハ

感謝シテ戴キマス

ソシテ貴方等ハ怖スニ朝鮮民族ノ立場ニ於テ

同情ヲ表示シ

日本人奴等ノ威嚇製作ノ下ニ恐怖セスニ

朝鮮民族ノ爲メ同情ト後援ヲ爲シ

飽迄モ國家ノ爲後援スルヲ望ミマス

最後ニオ願ヒシタキコトハ

先般吾等カ要求シタル物品ヲ速カニ準備シ

本月十三日迄納付シ

若シ準備シナイトカスル時ハ

吾等ハ呵責ナク軍事行動ヲ執行スル予定ニ付

諒知セラ度

屹度準備シテ下サイ

屯長様ニ於テハ少シモ吾等ヲ怖スニ

今日ノ夕　九時頃ニ出テ

吾等ニ會ツテ打合ナスコトヲ望ムト共ニ

此ノ手紙ヲ所持シテ行ツタ老人ヲ通シテ

吾等ト會フコトニシマセウ

吾等ハ九時過キニナルト

待タナイコトデア

p13/17

リマス

終リニ貴方ノ誠意ヲ望ム　抗日敬礼ヲアケマス

一九三九年五月七日　　李軍需處　※昭和14年(1939)

東北抗日聯合軍 第一路 第二方面軍

本部　金平部隊即告

（封筒）表

傳送　大洞屯

金先生屯長　　允國氏　鑒

至急　　抗日聯合軍

鑒：https://baike.baidu.com/item/%E9%89%B4/2475705

繁体 鑒

异体 鑑*、鋻*、鑑

屯长：https://baike.baidu.com/item/%E5%B1%AF%E9%95%BF/7827496

《清史稿·食货志一》：&仍仿营田制，十户一屯长，五十户一屯正。&

屯：https://baike.baidu.hk/item/%E5%B1%AF/870272

屯子，村莊。village 屯落

—----------

p14/17

其二、豆滿江上流住民ノ動靜及警備ノ狀況

1. 住民ノ動靜

豆滿江ノ一葦帶水ヲ以テスル

豆滿江上流鮮滿國境ハ增水ノ場合ノ外

到ル處　徒涉容易ニシテ

近年　北鮮製紙會社・材木伐採並ニ

之ニ伴フ　各種施設

特ニ　豆滿江岸ニ副フ　國境道路ノ開設

茂山鉄山ノ開發等ニテ

鮮人ノ移住多ク

金融機関モ比較的良好ナルモノノ如ク

又　内地人ノ往来モ

其　豊富ナル資源ト治安ノ維持トニ伴ヒ

頻繁ヲ極メントスル傾向ニアリタルモ

本年五月下旬以來ノ匪賊ノ來襲等ニ依リ

三長以西ニ於テハ相當ノ打擊ヲ受ケタルモノノ如ク

特ニ　各種事業經營者ニ於テ甚シ

而シテ　事業関係者以外ニ於テ

一部ノ住民中ニハ　匪襲恐ルルニ足ラス

匪團ハ抵抗サヘセサレハ生命ヲ奪フモノニアラスト

轉々ト其職場ヲ變更スル

所謂　旅烏式ノモノアリテ

之等ニ對シ

指導ヲ要スルモノナシトセス

一般ニ住民ノ軍紀ニ對スル信頼ハ大ニシテ

行軍間軍隊ノ宿營ヲ衷心ヨリ希望スルモノ等

其一例ナリ

—----------

2. 官民警備ノ狀況

（１）警察官

近來　警察官ハ增員セラレ

三長警察署管内ノミミテモ

二百名内外ノ人員ニシテ

一般警察官ノ業務ニ服スルモノト

討伐或ハ警備等ニ專念スル警察隊トニ區分サレ

其　裝備モ輕機擲彈筒（輕擲）等ヲ有シ

且　人員ノ選定ニ方リテモ

兵役関係者ヲ多ク

役者ニ充當セラレアルヲ以テ

相當　警備力アリ

又　一般ニ眞執ニ服務シアルカ如シ

（２）地方側警備機関

（イ）自衛團ノ狀況

昭和十二年初夏　匪團來襲以來

當方面ニ派遣セラレタル

軍部指導ノ下ニ

部落民ヲ以テ編成セルモノニシテ

自發的ニ夜間　其　部落直接ノ警戒ニ任シ

目下　何レモ極メテ眞執ナルモ

兵器ヲ存セス

單ニ見張ニ止リ幼稚ノ域ヲ脱セス

（ロ）自警團ノ狀況

昭和十二年五月　豆滿江上流地區ニ

匪團來襲以來

北鮮製紙會社ニ於テ雇傭セルモノノニシテ

鈴木予備少尉以下十余名ノ

在鄕軍人ヲ以テ編成シ

何レモ　小銃ヲ有シ

比較的優秀ニシテ

目下　三水坪（農事洞上流約四里）ヲ定位置トシ

ー----------

〔画像〕1100-16⇒〔画像〕1100-14と同一

〔画像〕1100-17⇒〔画像〕1100-15と同一